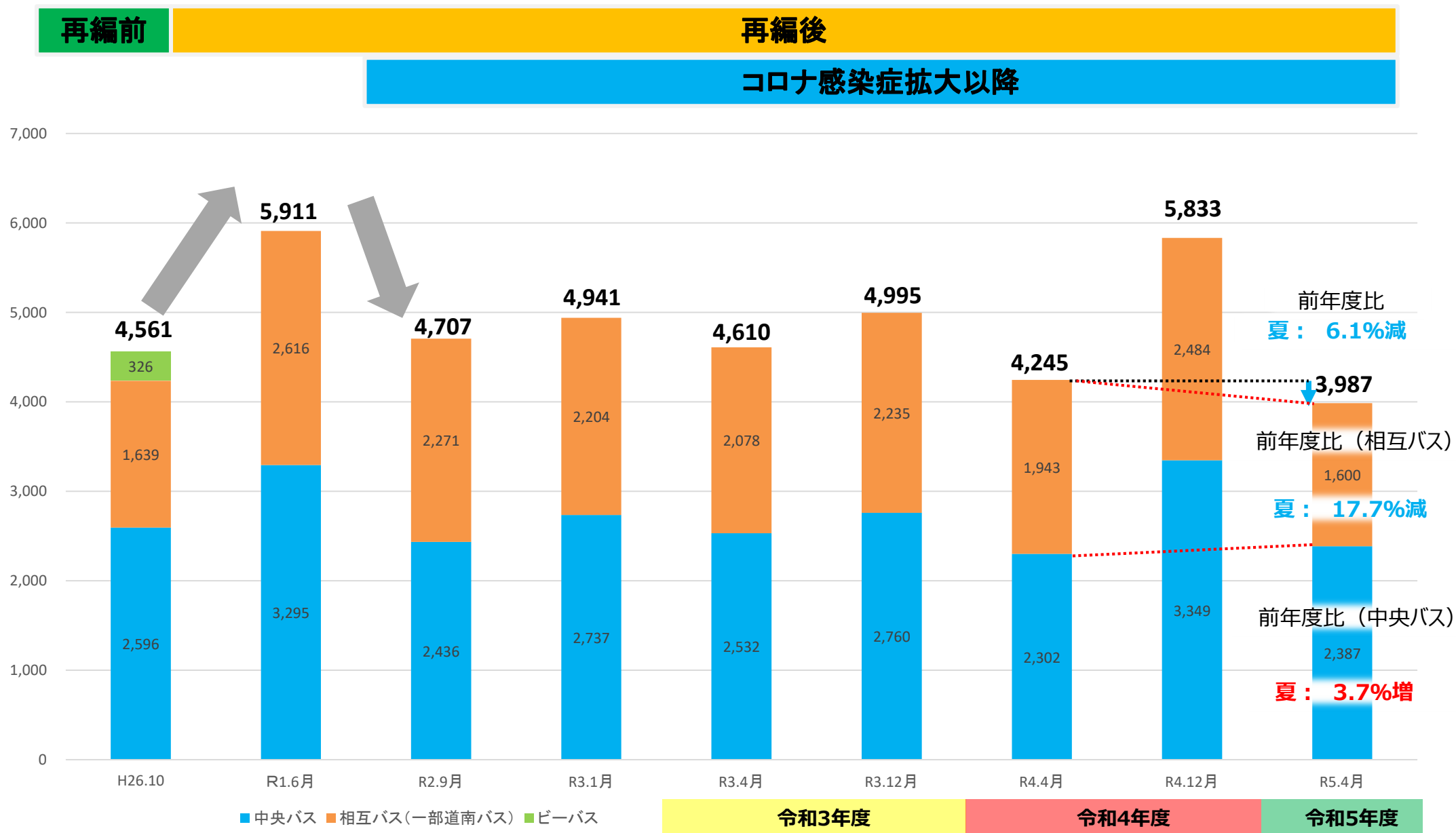


# 千歳市における 路線バスの利用状況について

# 市内路線バス利用者の推移（1日全便一斉調査）



▶再編後は増加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、再編前と同程度まで減少し、近年は横ばいに推移している。令和5年4月の調査では、前年の夏期と比べ、6.1%の減少となった。減少の要因として、千歳相互観光バスが減便運行を行っていることなどが考えられる。

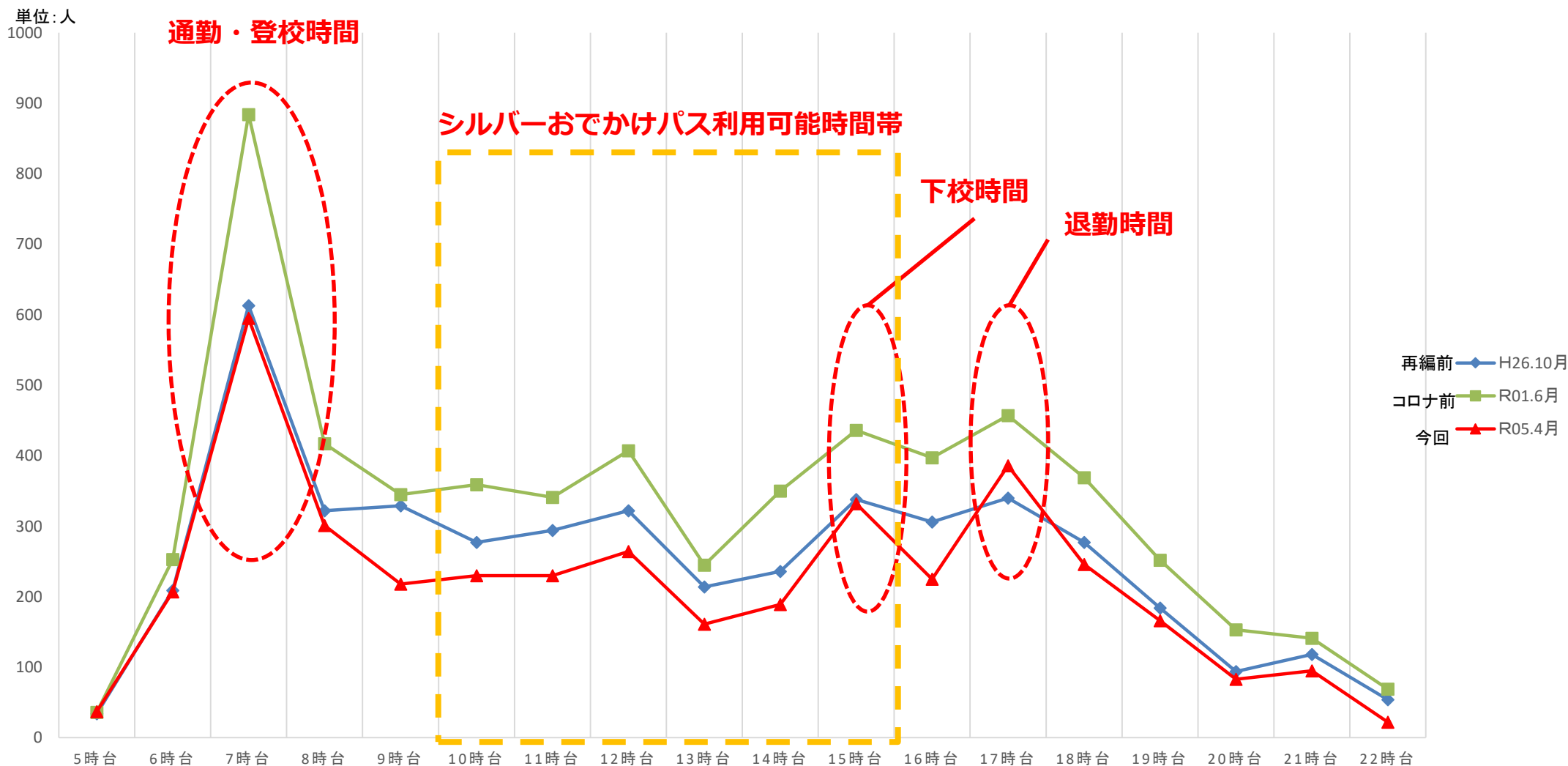
# キロ・便当たりの利用者数

※カッコ内は 前回（令和4年4月調査）数値との差

運行路線		利用者数(人/日)	営業距離(km/日)	便数	キロ当たり利用者	便当たり平均利用者
中央バス	稲穂団地線	371( +3)	222.9	27	1.7( +0.05)	13.7( +0.1)
中央バス	桜木空港線	90( +12)	54.7	3	1.6( +0.17)	30.0( +4.0)
中央バス	桜木線	247( ▲14)	268.4	23	0.9( ▲0.07)	10.7( ▲0.6)
中央バス	みどり台空港線	62( +17)	28.6	2	2.2( +0.63)	31.0( +8.5)
中央バス	みどり台線	203( +25)	198.7	27	1.0( +0.1)	7.5( +0.9)
中央バス	支笏湖線	152( ▲5)	272.4	8	0.6( ▲0.02)	19.0( ▲0.6)
中央バス	新星空港線	614( +34)	404.7	31	1.5( +0.07)	19.8( +1.1)
中央バス	空港市内線	203( +4)	108.3	12	1.9( +0.06)	16.9( +0.3)
中央バス	東部隊線	438( +24)	299.5	47	1.5( +0.12)	9.3( +0.5)
中央バス	桜木長都線	7( ▲15)	34.8	4	0.2( ▲0.43)	1.8( ▲1.0)
千歳相互バス	泉沢向陽台線	349( +21)	240.9	19	1.4( +0.38)	18.4( +5.3)
千歳相互バス	泉沢市民病院線	748( ▲171)	554.6	34	1.3( +0.08)	22.0( +2.0)
千歳相互バス	図書館青葉線	139( ▲42)	134.4	16	1.0( ▲0.27)	8.7( ▲1.9)
千歳相互バス	市民病院プール線	102( ▲35)	102.8	13	1.0( ▲0.07)	7.8( ▲0.8)
相互・道南	勇舞空港線	262( ▲116)	266.7	21	1.0( ▲0.03)	12.5( ▲1.0)
合計		3,987( ▲258)	3,603.6	320	—	—

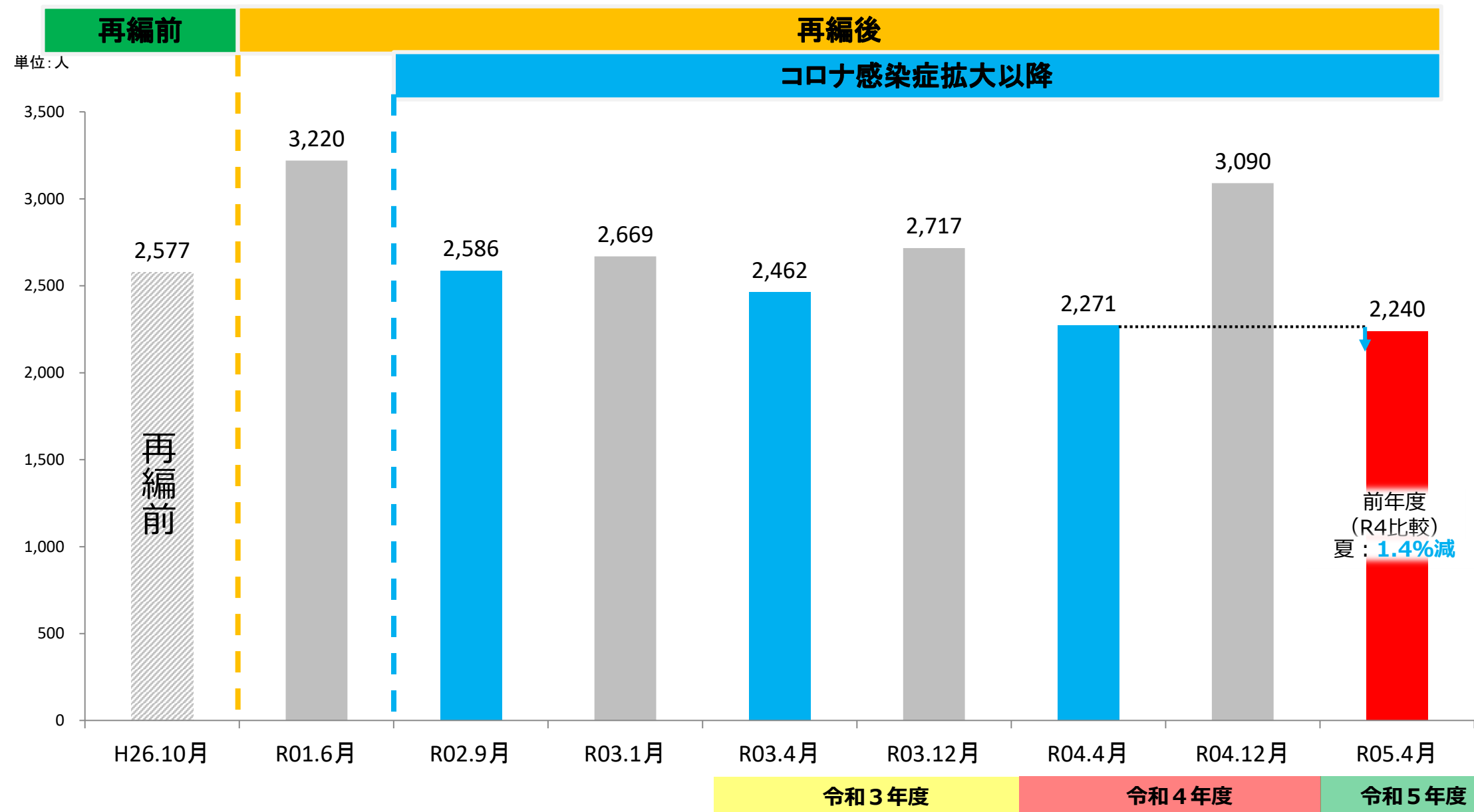
▶千歳相互観光バスの運行路線の5路線中4路線で利用者が減少しているが、向陽台地区を発着とする2路線については、1キロ当たりの利用者数、1便当たり平均利用者数ともに増加している。  
また、空港を発着とする路線について大半の路線で利用者が増加している。

# 時間帯別利用者数推移（再編前とコロナ後）



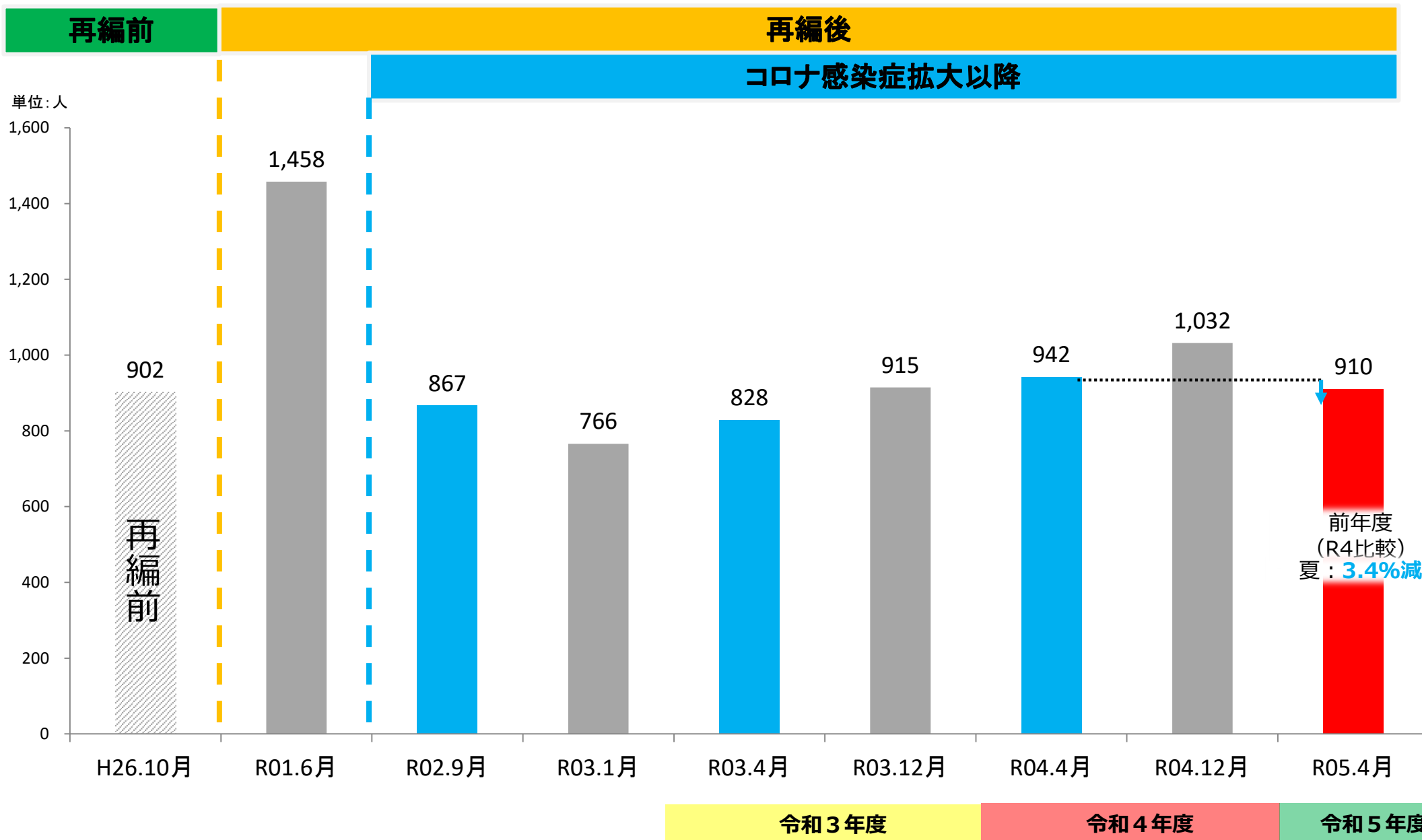
▶ 今回の調査では、退勤時間の17時台を除き、全体的にどの時間帯でも再編前より利用者が少ない結果となった。

# 千歳駅 乗降人数比較



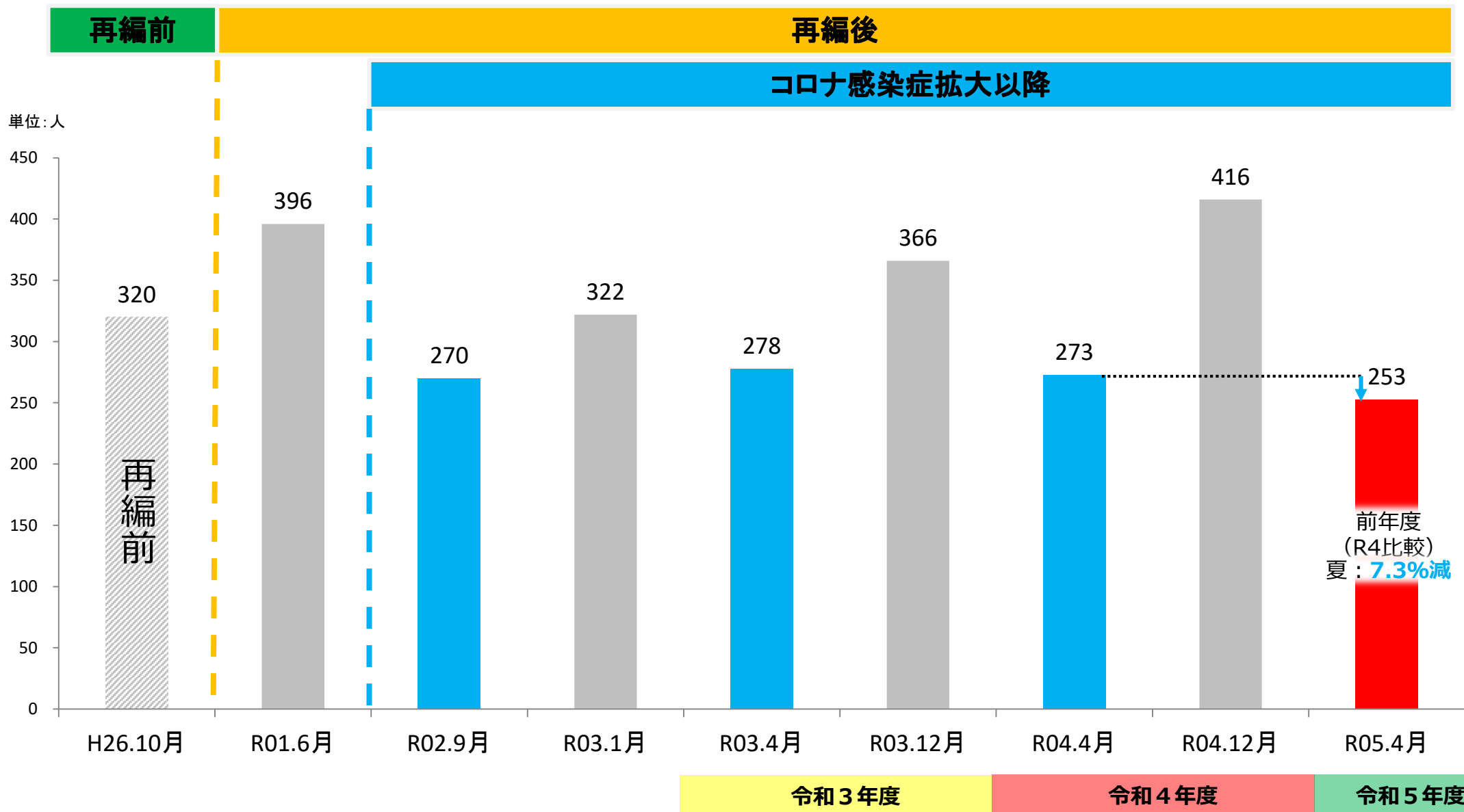
▶新型コロナウイルス感染症の影響により、再編前と同程度まで減少してからは、ほぼ横ばいで推移している。令和5年夏季の調査でも同様に、横ばいに推移する結果となった。

# 市民病院 乗降人数比較



▶新型コロナウイルス感染症の影響により、再編前と同程度まで減少した後、毎年微増で推移していたが、令和5年夏季の調査では、昨年の夏季と比べ、横ばいに推移する結果となった。

# 新千歳空港 乗降人数比較



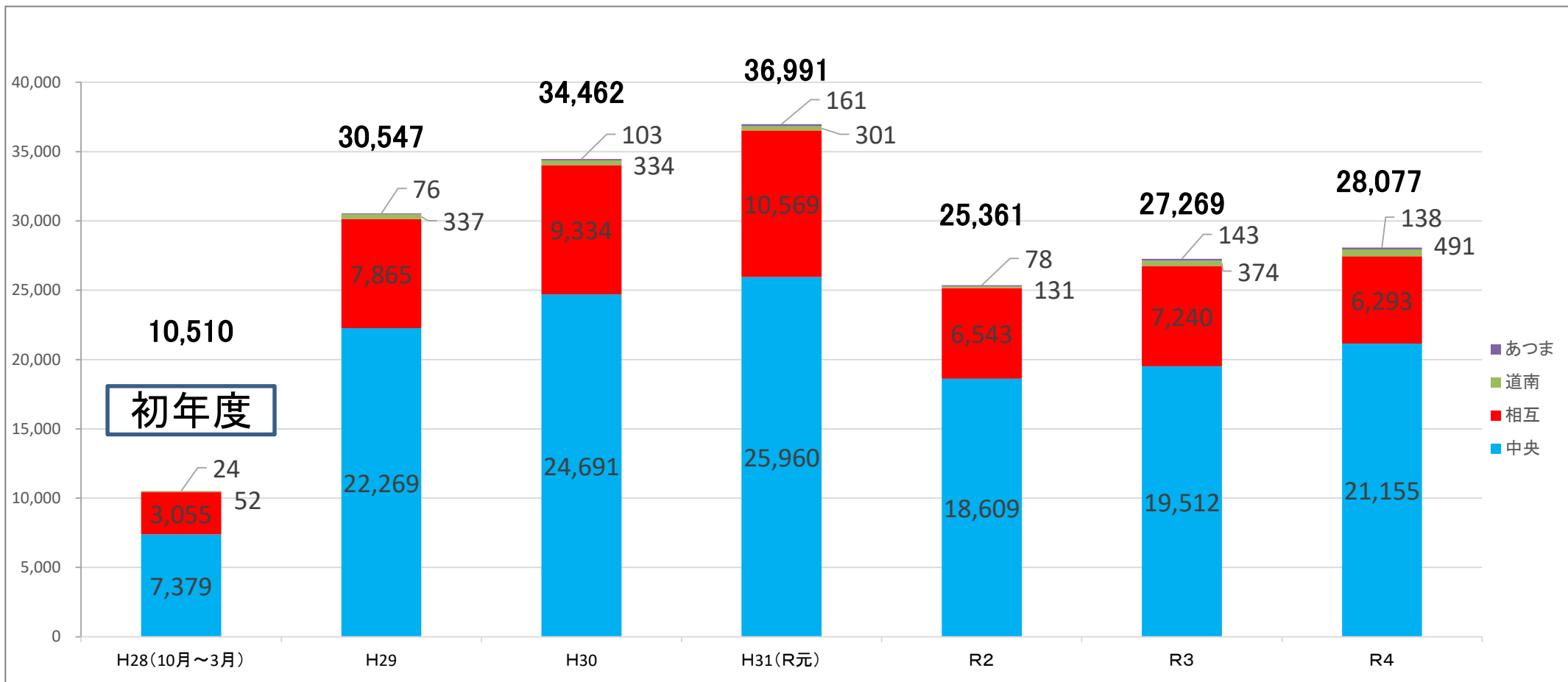
▶新型コロナウイルス感染症の影響により、再編前と同程度まで減少した後の傾向として、冬季の調査では、回復傾向がみられているが、夏季の調査では、横ばいに推移している。

# 乗継チケットの利用状況

再編後

コロナ感染症拡大以降

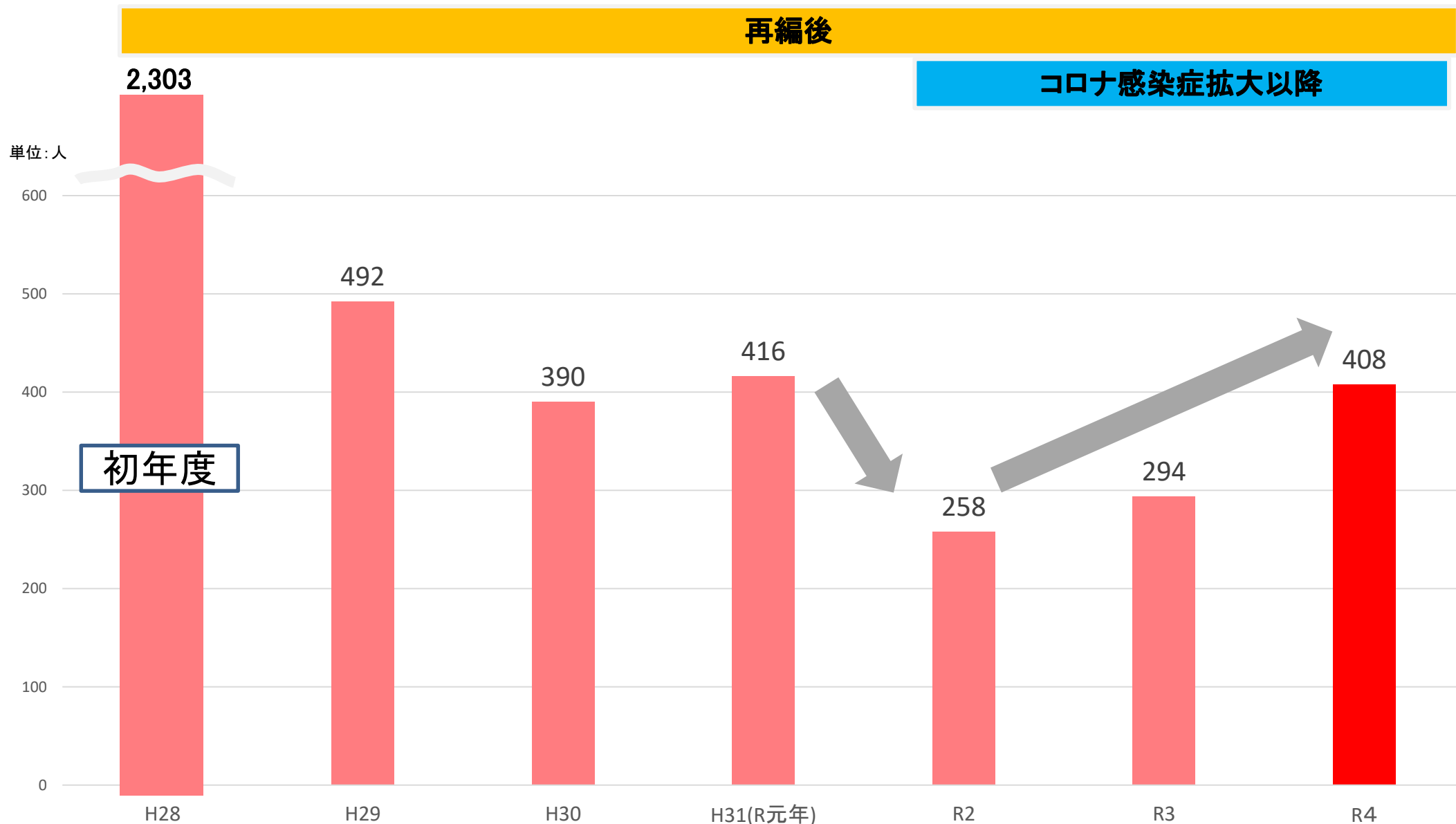
単位:枚



▶乗継チケットの利用者は、制度の浸透とともに少しずつ増加してきた。新型コロナウイルス感染症の影響により減少したが、徐々には回復傾向が見られる。



# シルバーおでかけパス発行数



▶近年のシルバーおでかけパスの発行は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していたが、新型コロナウイルス感染症に対する規制緩和により、令和4年度については、コロナ前と同水準の発行枚数となった。